

平成27年5月15日／毎月1回15日発行

医 師 と 医 師 会 を 結 ぶ 情 報 紙

都医NEWS

Vol. 591

発行所 ■公益社団法人 東京都医師会 〒100-0003 千代田区一ツ橋1-2-2 住友商事竹橋ビル13階 TEL.03-6256-0256(代) 定価 ■1部75円

第283回(臨時)代議員会 ほか	01
底流／第134回 日本医師会臨時代議員会	
湯藤進先生、叙勲祝賀会 ほか	02
みどりの広場／趣味の散歩 ほか	03
ふれあいポスト	04
都医からのお知らせ ほか	05
労災診療費算定基準及び自賠責保険診療費算定基準 (手上げ方式の日医基準)説明会開催要領 ほか	06
地区医師会長からの一言	08



第283回(臨時)代議員会を開催

「医療を通じて人間の尊厳が大切に
される社会の実現を目指したい」

尾崎副会長

公益社団法人東京都医師会
第二八三回(臨時)代議員会
が、三月二十六日(木)午後
二時より飯田橋のホールで
開催された。

真鍋議長から本日の次第に
ついて説明があり、会議録署
名人に天木聡、野田清大両代
議員が指名された後、出席代
議員数により会が成立してい
ることが確認された。

一 会長挨拶

野中会長が療養中のため、
尾崎副会長が会長代行として

挨拶に立つ東京都医師会
尾崎副会長

挨拶に立ち、「二〇二五年の
超高齢化社会に向けた効率的
で質の高い医療体制及び地域
包括ケアシステムの構築を二
本の柱として、諸事業が展開
されていくことになるが、東
京都医師会はこのからも地区
医師会の先生方と連携して、
医療を通じて人間の尊厳が大
切にされる社会の実現を目指
したい」と述べた。

議案は原案通り賛成多数で
可決承認された



小林弘幸理事

平成26年度 東京都医師会 功労賞表彰式及び医学研究賞・グループ研究賞 受賞記念講演会

功労賞45名、医学研究賞3名、グループ研究賞1グループ、
医学研究賞奨励賞6名受賞



功労賞受賞者

平成二十七年三月二十八日
(土)に平成二十六年度東京
都医師会功労賞表彰式及び医
学研究賞・グループ研究賞受
賞記念講演会が新宿のホール
で開催された。今回は功労賞
と医学研究賞・グループ研究
賞・医学研究奨励賞の表彰
を同時に行うことになり、参
加者は約百名であった。功労
賞受賞者は四十五名、医学研
究賞は三名、グループ研究賞
は二グループ、医学研究奨励
賞は六名であった。



医学研究賞・グループ研究賞・医学研究奨励
賞受賞者

功労賞授与さ
る

最初に尾崎治夫副会
長の挨拶があり、次に
森久保雅道理事から功
労賞の意義と表彰規
程、友安茂理事から医
学研究賞・グループ研
究賞・医学研究奨励
賞の目的と選考経過が
説明された。続いて、
尾崎副会長から表彰状
が授与され、功労賞の
湯藤進氏(港区医師会)
が受賞者を代表して謝
辞を述べられた。その
後、医学研究賞を授与
された佐藤悠佑氏(東
京大学医師会)、加畑
宏樹氏(慶應医師会)、
前嶋康浩氏(東京医科
歯科大学医師会)、グ
ループ研究
賞を授与さ
る

二 報告事項
以下について担当理事より
報告があった。
(一)平成二十六年度東京都
医師会庶務及び事業概況―本
報告後、この一年間に物故さ
れた百二十六名の会員に対し
て、真鍋議長の発声にて黙祷

が捧げられた。
(二)平成二十六年度東京都
医師会経理概況
(三)平成二十七年東京都
医師会事業計画
(四)平成二十七年東京都
医師会収支予算
以上の報告後、杉田代議員

より新会館建設費の支払い及
び返済計画について質問があ
り、担当理事が答弁した。
三 議事
〔第一号議案〕平成二十六年
度東京都医師会会費減免申請
に關し事後承認を求むるの件
〔第二号議案〕平成二十七年
三時二十五分閉会した。

度東京都医師会会費賦課徴収
に関する件
面議案について担当理事より
説明があり、審議の結果賛
成多数で原案通り可決承認さ
れた。
全ての日程を終了して午後
三時二十五分閉会した。

底流

若手医師を 育てる環境整備の 必要性

東京都医師会の学術・教育分野では、現在日本専門医機構発足に伴う研修制度への対応が重要な課題となってきた。現在実施されている新医師臨床研修制度では、若い研修医は専門医を目指しすぎ

識を持って診療する専門医のほかに、幅広く多くの領域を診られる診療科横断的な医師も育成されることを期待している。その期待に応える医師を養成するために、今年四月に総合診療専門医制度が発足した。総合診療専門医は内科、外科、小児科を始め多くの領域の技能知識を習得する研修プログラムとなり、その一つに地域医療研修があげられている。すなわち、大病院だけではなく地域診療所で研修する必要性が出てきている。在宅医療、終末期医療、地域包

括ケアシステム、多職種連携などを地域で学ぶ。この研修医の受け入れについて昨午行った東京都医師会員の大学医学部・医科大学における地域医療実習・研修に関するアンケート調査では、多くの先生方は了解されていた。しかし、研修医を引き受けたときの大きな不安については、研修に必要なカリキュラムが無いこと、指導方法がわからない等があげられていた。研修医を教育する技能は医学部では講義されていないため、人に教えることを不得手とす

る先生もおられると思う。このように不安に対して、東京都医師会が指導医講習会を例年開催しているが、講習会への参加には土曜日、日曜日を休む必要がある。今後、地域医療の現場はこのような状況が続くため、医師会が国民の健康を担う若手医療人の育成の重要性を国民に周知し、その育成のために大病院のみでなく地域研修をするところによって国民の求めている医師が育成されていくことを理解していただけるよう活動していく必要があると考えている。

地区医師会長 連絡協議会報告

平成27年4月17日(金)

※詳細はホームページの「地区医師会長連絡協議会速報」を参照

◎日本医師会活動報告

「勤務医の健康支援に関する日本医師会の取り組みについて」日本医師会常任理事 道永麻里

平成二十二年に日本医師会会長から諮問を受け委員会を設置、検討を開始。平成二十六年に医療法が改正された経緯が報告された。詳細は都医ホームページ地区医師会長連絡協議会速報参照。

◎地区医師会からの報告

- (一) 中央ブロック
- (二) 城東ブロック
- ①「食育推進全国大会inすんだ二〇一五」について

(墨田区)

病院に勤務されている医師の主治医意見書に関するレクチャーの場を要望。

- (三) 城西ブロック

①平成二十四～二十六年度中野区摂食・えん下機能支援推進協議会活動報告書について

(中野区)

- (四) 城南ブロック

- (五) 城北ブロック

①B型肝炎ワクチン接種事業の実績報告について(豊島区)

- (六) 多摩ブロック

- (七) 大学ブロック

◎出席者による意見交換

(一) ジェネリック医薬品の質の担保について等(ジェネリック医薬品の処方等について各地区の現場での課題点等のご意見を伺った)。

◎その他

東京都では、デング熱の行政検査の要件を定めた。

(二)「医療機関外の場所で行う健康診断の取扱いについて」の改正及び医療機関外の場所で行う予防接種の実施について



壇上の湯藤先生ご夫婦

湯藤進先生、叙勲祝賀会

平成二十七年三月五日、章受章祝賀会盛大に開催

旭日雙光章受章祝賀会が大

手町のパレスホテル東京にて、ピアノ、二胡、琵琶の生演奏をバックに華やかに催された。発起人を代表してまず、

都医師会の理事でもある港区医師会橋本雄幸会長から湯藤進先生の幼少の頃から生い

立ちから港区医師会、都医師会での功績について紹介があり、続いて湯藤先生が都医師

会の理事当時の同期として役員をされていた都医師会野中

博会長からも、同じ御茶ノ水の理容室に行っていた事など個人的なエピソードをはさみ

つつ、公衆衛生担当理事として簡潔にまとめた新興・再興感染症簡易卓上マニュアルの作成に関わった事などが紹介された。最後に昭和大学の

けるのを嫌がられると思うし、医師とわかってもらって親しんだ方がいい。医師の診療の希望することが予想される。今後、地域医療の現場はこのように変貌するため、医師会が国民の健康を担う若手医療人の育成の重要性を国民に周知し、その育成のために大病院のみでなく地域研修をするところによって国民の求めている医師が育成されていくことを理解していただけるよう活動していく必要があると考えている。



代表質問を行う猪口代議員

第三十四回日医臨時代議員会が三月二十九日(日)日本医師会館で開催された。開会挨拶に立った日本医師会横倉会長は、「医師の責務や医師会の役割は国民のためのものであり、団塊の世代が後期高齢者となる二〇二五年

計画及び予算の件が理事より報告後、財務委員長から財務委員会結果報告があり了承された。

議事に入り第一号議案平成二十六年年度日本医師会会費減免申請の件が上程され理事者が提案理由を説明後、質疑・表決され承認された。

その後、各ブロックの代表質問八件、個人質問十件並びに関連質問が行われた。

東京ブロックからは、猪口代議員が「首都圏における地域医療構想策定に関する日本医師会の見解はいかがか」と代表質問を行い、中川副会長が、「地域医療構想は四十七都道府県あれば四十七通り、さらに都内でも構想区域ごとに色々な特色がある」と回答した。

なお、個人質問は、今回は行われなかった。

引き続き、平成二十七年年度日本医師会事業

88

みどりの広場

地域医療への
新たな取り組み

日本医科大学多摩永山病院院長 新博次



るべきである。われわれの立場では、目先の僅かな「旨味」を見せられても、「物事の本質」「将来的な医療の質の担保」という問題を忘れないようにすべきである。

病院運営をする立場からは、DPC運用以後、より高い「病院係数」を取得できるという甘い誘いに乗って後発品の導入などに対応してきた。しかし、実際にこれらの事項への対応は、今日の国策

とされる医療費削減に繋がっているかは疑問が残る。その昔、院外処方への切り替えをしたが、多くの調剤薬局が病院周辺で開業し、それらの調剤薬局で経営困難になると

この先には第一弾であり、品使用推進は第一弾であり、その先にさらなる仕掛けが潜伏している可能性も考えられるが、処方箋に関わる国庫からの支出は増加しているとみ

改定に伴い、地区医師会でも在宅医療を手がける実地医家が増えていると聞く。より効率的な良い診療報酬を得ることは重要な問題かも知れない。われわれはその問題とは別に、地域社会において在宅医療を受けている高齢者が、本来の疾病により徐々に増悪するのではなく、肺炎、心不全などの合併症でより密度の高い医療を必要とする状況となった場合、急性期病院で治療が受けられるシステムを構築することを目指している。当院が立地する多摩市は、以前より高齢化が最もすすんでいる地区として名声を博し、市政を預かる立場の人々も「安心・安全」を目標に掲げている。この方針に地域医療を担当する者としては、「仮に在宅医療を受けていても、必要に応じて基幹病院で入院治療が受けられる街」とすることを考えた次第である。担当医より依頼があった場合、速やかに入院対応を可能とするための担当窓口を用意し、症例を集積し、在宅担当医と共に定期的に入院症例の報告会を兼ねた在宅症例検討会を企画している。地域医療をより円滑に、また、それぞれの地区に適した医療体制の構築が望まれる。国策としての医療制度への介入もやむを得ないものなのかも知れないが、われわれは目先の「うまい話」に惑わされないよう対応すべきである。地域医療も、それぞれの立場からの前向きな提言を受け、より良い仕組みが構築されることを願いたい。

昨年NHK出演の際、ゲストは假屋崎省吾氏であった。私の名刺を見て「三鷹市といえば、井の頭公園があるところね」といかにも華道家らしい返答であった。アニメ派はジブリの森、文学派は山本有三記念館、太宰治が入水した玉川上水、森鴎外の墓もある榊林寺の名を挙げるだろう。娘世代は嵐の大野くんゆかりの地とくるであろう。ちなみに医師会館近くのラーメン小国（おぐに）には彼のサインが飾ってある。

さて本題。病院前（長谷川病院）を流れる野川は、国分寺市に発する水源を持ち多摩川にそそぐ全長二〇・五キロメートルの一級河川である。市の整備事業で毎年丁寧に川岸の草刈り取られているため、水辺を歩くことができる。また護岸工事が整った小道を行くのも良い。病院から上流に向かいスタートすると、隣には東大の馬場。飛橋（とびばし）を越えると、たんと

ぼとその奥にはワサビ棚が目に見え込んでくる。人見街道東八道路の橋をくぐるとうち小金井市になる。折り返すと野川公園、近藤勇ゆかりの龍源寺、水車小屋、飛行場（ユミシンの歌詞に登場）、ふだんはスポーツ広場になっている調整池、さらに進み大沢橋から先は調布市に至る。ここまで来ると多摩川合流まで後十一キロメートル。そこまで行きたくなる気持ちを抑える。三鷹市内にかかる橋は

十二。散歩の距離を橋の数で調整している。春は桜、夏の夕べにはカエルの鳴き声。運と根気があればカワセミの姿を見ることができ。もっとも私の場合は散歩ではなくランニングであるが。

牛蛙

コントラバスの

響きにて

ほおほおと鳴く

野川の夕べ

(三鷹市医師会・吉永陽子)



院長室からの東大馬場と桜並木と野川



川沿いの水車小屋

三鷹市

四季を楽しめる野川の
ランニングコース

趣味の散歩

都医ニュース表紙の写真を募集

本ニュースは毎月、季節にあった都内の写真を表紙に掲載しております。その掲載写真に、会員の先生がご自身で撮影した写真を応募してみませんか？

東京の感じが出ている写真で、季節感のあるものをお願いします。

本会広報委員会で掲載を決定いたします。

なお、掲載された写真は、本会のホームページのトップページでも掲載させていただきます。

【応募規定】

デジタルカメラで撮影をした 600 万画素以上のデジタルデータ
プリントサイズは、横 235mm × 縦 137.5mm

応募・
問い合わせ先

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-2-2
東京都医師会広報医療情報課 ☎ 03-6256-0256 (代)
kouhou@tokyo.med.or.jp

掲示板

がんで往くのも、
まあいいか

杉浦昭義 著 (田園調布医師会)



著者は働き盛りである五十三歳の時に膀胱がんの宣告を受け、最終的には十時間にもおよぶ膀胱全摘術を受けたにもかかわらず、妻ともども結婚五十周年を迎えられる僥倖に感謝したいと綴っており、がんの悲観さはみじんも感じられず、怡然として感じられる。

往時茫然となる四十八年前の留学話。独特の作風による刻字作品を取り巻く出来事。旅から得た経験と知見等が書き込まれている。特に「望郷（サウダーズ）の国ポルトガル」と創作の「リスボン追憶」のつながりは面白く、対比しながら読まれることをお勧めする。喜寿を超えた著者が、「鬼手仏心」の良きドクターに巡り合えた幸せを感じ、「生者必滅」の気持ちに至る経過が抒情的文章で表現されている。読み終わった後、「がんで往くのも、まあいいか」と大いに納得できるほどの感動に包まれるはずである。

発行▼文藝春秋企画出版
価格▼一、六〇〇円(税別)

知ってますか？

CTC
(CTコロノグラフィー)

一般的に行われている大腸ファイバーと違い、ファイバースコープを挿入することなく大腸を描出することができる。その分患者さんへの苦痛、危険性は軽減されるが、実際に目視するわけではないので色調の変化など微妙な判別は難しいかも知れない。しかし3D画像での説明にはかなりの説得力が有りスクリーニングとしては効果的と思われる。



豊島区医師会

吉田竜介

「昔話」より『やけど?』

先代の亡父が診療していたころの昭和30年代の話である。自分は小学生だったと思うが、診療所の玄関に男が倒れていた。「大変だ！人が倒れているよ」と父に告げたところ父は「いいんだ、そのまま寝かせておきなさい。『ノーナン火傷』なのではない」と言った。

なんだか訳の分からない病気で重症なのかなと思った。その人は近所に住む大工さんであった。かなりお酒を頻繁に飲む人だと父から聞いていたので、「お酒を飲み過ぎるとヤケドする病気なんだ」「もしかしたらお燗をつける時に熱湯でヤケドするんだ」と理解していた。火傷の人なのになぜ玄関に寝ていたのか不思議であったが、その大工さんは夕方には奥さんに付き添われ帰宅していった。

その後、随分しばらくはその「ノーナン火傷」の大工さんは来院しなかったようであるが、ほどなくして亡くなった話を聞いた。たしかお子さんは3人くらいいたと思われるが、一番上の息子さんは自分と同年齢くらいであったと思う。彼は少し精神発達遅滞があったようだが、当時良く一緒に遊んだ記憶がある。

彼のうちは近所の家と家の間の狭い路地を入った陽当りの悪い裏手に建てられた木造の小さなバラックだった。当時は戦後にバタバタと建てられたであろうこのような家が随所に点在していた。因みにその大工さんの死因は「脳軟化症」であったそうだ。なんだヤケドじゃなかったんだ(笑)。

子供にはあまりしがらみというものがないものである。

自分は近所の子供達にくっついていっては、よくその子の家にあがりこんで遊んでいた。おおらかな時代で、当時は昼間なんてたいていの家の門戸は開けてあり、鍵のかかっている家は多くなかったと記憶している。

小学校の高学年になると、近所の子供達と遊ぶ機会はほとんどなくなった。中学生になってからは、近所にいる彼らとますます顔をあわせることはなかった。

そんなある夜のことであった。近所から火の手が上がり、うちの2階からも火事の火柱が手に取るように見えた。消防車が数台駆けつけ、所狭しとホースを路地にはわせた。火元は彼のうちだった。火はほどなく鎮火したが彼の家は全焼した。彼らはそれ以来、どちらかに引っ越していったようであったが以後の消息は全く知らない。

(豊島区医師会会報第128号より抜粋・一部割愛)



平和よ、いつまでも

杉並区医師会 河見賢三

三鷹市医師会

種村睦子

雑感あれこれ

最近、日本の四季は壊れつつあると言われていますが、特に今年は梅雨らしさありません。降ればゲリラ豪雨となり、昼夜の温度差、湿気も多く、体が疲れやすい、足が重い、目が回る等々、体調不良を訴える方も多いです。

亜熱帯化してきたかのような気候不順だった夏も、お彼岸を過ぎてようやく終局を迎えやれやれと一息ついているこの頃です。

いわゆる木の芽時は三寒四温とも言うように、落葉、枯葉、秋の陽は釣瓶おとしとも言われている暮れゆく夕日等々、春に比べると変化が多いことからもの淋しい情景が心情的に私たちの心には合うのかもしれない。

万葉集にも、秋を題材にしたもののなかで一番多く詠まれている花は「萩」だとのこと、草冠に秋と書く文字は日本独特なのだろうということです。

季節も然ることながら、私たちを取り巻く社会も生活環境も日々変化がみられます。身近な事と言えば、特に若い人達の間では恐らくなくてはならない物になっているのであろう「スマートフォン」に

しても、あそこまで必要なのだろうか和我々世代はしみじみ思うのですが…。

電車に乗るとほとんどの方が手にして何かをしていますネ。先日、指だけ機械的に動かしながら、瞬きもせず画面を凝視している顔を眺めていましたら、その無表情さに少々ぞっとしました。

日常生活のなかで会話をしなくなったとよく耳にしましたが、今は当たり前。人間はロボットではなく喋る動物なのですから、相手の目を見て、声を出して話をするというのが原点だと思うのですが…メールのやり取りより、電話の方がコミュニケーションがずっと成り立つと思うのですが…。

(三鷹医人往来第36巻6号より抜粋・一部改編)

無声拝聴

薬の医療費ナンボのもん

カルテから処方日数と来院に差がある患者さんに「あれ？？お薬ちょっと足りなかったのではないですか？」と問うと「お薬無かったけど体調が思わしくなくて・・・」と、笑い話のような会話を珍しい話ではない。時にはこんな返答も、「朝の薬は無かったんだけど、他のが余っていたから大丈夫だった。」は如何なものだろう。こういった患者さんは、認知症でなくとも何度同じ話をしても、いくらでも繰り返す。ならばと残っていた薬を聞き出し、それを一日三回なら二回もしくは一回へ。結局、内服は朝と寝る前だけになったが、それでも薬の数はすぐ合わなくなる。これで事故がなければ良いのだが。

テレビで、高齢者の自宅に四百億円ほどの残薬があり、薬剤師の先生から医師に処方減らしてもらう様を請うると、か。また、高齢の患者さんのところには、督促状のように行政からジェネリック医薬品への変更を促す通知が来ている様子。治療が安定している患者さんの申し出で後発医薬品に変更した途端薬疹が出た、という経験をした事があるのは小生だけでは無いはず。したがって最初から使用するなら抵抗は少ないが、変更は躊躇してしまう。ましてやこれが患者さんの側から見ると、変更したいけど変えられない、変更を促す頻回の通知を見る度に罪を感じる方も。当然薬自体を変更したり試行錯誤はしてみるが、単に後発品に変更するより明らかに煩雑。結果、医療の本質から全く離れた部分に、確かに金額とは関係ない医療資源を削ぐことになる。

国民皆保険制度の維持のため、医療費について再検討は必要な事だが、時には後発医薬品への変更よりも現行の先発医薬品に対する、なんだか既得権益(?)のような取り扱いを再考しては、とも思う。(坪田)

都医からのお知らせ

INFORMATION

東京内科医会 第199回臨床研究会

(症例検討とミニレクチャー)

問合先

東京内科医会 TEL:03-6256-0414

日時▶平成27年6月20日(土) 15:45~18:00

場所▶国立国際医療研究センター病院 5階大会議室(東京都新宿区戸山1-21-1)

担当▶加藤 温先生(国立国際医療研究センター病院 総合診療科診療科長)、梶尾裕先生(国立国際医療研究センター病院 糖尿病内分泌代謝科診療科長)

プログラム▶症例検討/2題、ミニレクチャー/2題

会費▶無料

取得単位▶日医生涯教育制度2単位(予定)

第18回日本医学会公開フォーラム

前立腺がん

問合先

日本医学会 文京区本駒込2-28-16 日本医師会館内
TEL:03-3946-2121(代) FAX:03-3942-6517
URL: <http://jams.med.or.jp/>

日時▶平成27年7月4日(土) 13:00~16:00

会場▶日本医師会館 大講堂(文京区本駒込2-28-16 TEL:03-3946-2121(代))

司会▶野々村祝夫(大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学(泌尿器科)教授)

開会挨拶▶高久史麿(日本医学会長)

序論▶「前立腺がんとは」野々村祝夫

講演▶①「PSA検診の意義」伊藤一人(群馬大学大学院医学系研究科泌尿器科学准教授)、②「早期がんの治療(手術療法)」原 勲(和歌山医科大学泌尿器科教授)、③「早期がんの治療(非観血的治療)」佐藤威文(北里大学医学部泌尿器科講師)、④「前立腺がん薬物療法」大家基嗣(慶應義塾大学医学部泌尿器科学教授)

閉会挨拶▶門田守人(日本医学会副会長)

申込方法▶FAX送信・郵便はがき・日本医学会ホームページ登録(記入項目:氏名、住所、職業、電話)

入場券▶参加申込後、10日以内に送付

締切▶先着500名

参加費▶無料

取得単位▶日医生涯教育制度3単位(カリキュラムコード:05、11、13、65、66、80)、日本内科学会認定総合内科専門医更新2単位(関係者のみ)

Dengue熱 — 診断と治療

感染症豆知識

昨年

の Dengue 熱の国内感染報告数は12月末までに162例となったが、その後冬を迎えるとともに流行は終息した。しかし気温の上昇とともに媒介蚊であるヒトスジシマカが発生し、今年も国内感染患者が発生する可能性がある。また昨年の流行により都民や医療関係者の Dengue 熱に対する認識も高まり、診断に結びつく例も増える可能性もある。

そこで改めて Dengue 熱の診断と治療を振り返る。一般の医療機関では感染を疑う場合には専門医療機関を紹介するか保健所に相談をお願いしたい。現在のところ保険適用される診断薬は市販されていない。また4類感染症全数届出疾患に分類されるため診断した場合には直ちに届け出ることになっている(届出の詳細については厚生労働省のHPを参照)。

厚生労働省は昨年9月に「 Dengue 熱診療マニュアル(第1版)」を公表したが、その後アップデートはない。治療は対症療法によるしかなく、水分補給や解熱剤の投与等となる。なお既に広く知られるところとなったが解熱にはアスピリンの使用は禁忌であることに改めて注意してほしい。昨年の国内感染事例では Dengue 出血熱は1例のみで、ショック症状を伴う重症型 Dengue の報告はなかった。なおワクチンについては昨年フランスのメーカーが南米における Dengue 熱ワクチンの臨床試験結果を公表し、今年実用化を目指すとの報道もあったが、当面国内での販売予定はないようだ。

厚生労働省では Dengue 熱診療マニュアルの他、今年3月に一般ならびに医療機関・検査機関向けの「 Dengue 熱に関する Q&A」を公表した。こちらもご活用いただきたい。

今後は Dengue 熱同様にヒトスジシマカによって媒介されるチクングニヤ熱の国内感染患者が発生する可能もある。発熱患者を診察する際には海外渡航歴あるいは蚊による刺咬について問診することを心掛けてほしい。

(文責:遠藤弘良)

第106回慶應義塾大学医学部生涯教育研修セミナー

「肺がんにならない、肺がんを見つける、肺がんを治す：肺がん治療の最前線」

問合先

慶應義塾大学信濃町キャンパス総務課内 生涯教育研修セミナー事務局
TEL:03-5363-3611 E-mail: med-somu-3@adst.keio.ac.jp

日時▶平成27年7月11日(土) 15:00~18:00

会場▶ハイアットリージェンシー東京 B1階『桃山』

開会の辞▶鈴木則宏(生涯教育研修セミナー委員会委員長) 挨拶▶岡野栄之(医学部長)

モデレーター▶浅村尚生(慶應義塾大学医学部外科学(呼吸器)教授)

講演▶①「肺がん画像診断の基礎と現代の肺がん根治手術の実際」浅村尚生(慶應義塾大学医学部外科学(呼吸器)教授)、②「進化する肺がん薬物療法の現状とこれから」副島研造(慶應義塾大学医学部内科学(呼吸器)准教授)、③「最新の放射線治療と肺がん」関智史(慶應義塾大学医学部放射線科学(治療)専任講師)

会費▶無料

取得単位▶日医生涯教育制度参加証交付3単位(カリキュラムコード:2、42、45、46)

次回第107回開催予定▶平成27年10月10日(土)

第32回糖尿病Up・Dateナゴヤ・キャッスル(賢島)セミナー

“糖尿病治療薬によるシームレスな血糖コントロール — 治療薬の選択と併用療法のすすめ方 — ”

問合先

中部ろうさい病院 堀田 饒(名古屋市港区港明1-10-6)
TEL:052-652-5511 FAX:052-652-5623

日時▶平成27年8月29日(土) 14:00~22:00、30日(日) 8:20~12:00

場所▶ウェスティンナゴヤキャッスル(愛知県名古屋市西区樋の口町3番19号)

参加費▶50,000円(proceedings代、8月29日夕食・8月30日昼食含む)※宿泊費別途

セミナー▶【29日(土)】Ⅰ「血糖コントロールとその目標は如何にあるべきか」講演:『糖尿病の診断基準の変遷と血糖コントロールの在り方』加来浩平(川崎医科大学)、Ⅱ「糖尿病の病態に応じた治療薬の選択は如何にあるべきか」講演:『2型糖尿病の病態に応じた治療薬の選択と併用療法のすすめ方』門脇 孝(東京大学)

【30日(日)】Ⅲ「糖尿病合併症と危険因子対策は如何にあるべきか」講演:『危険因子からみた糖尿病性合併症とそれへの対応』中村二郎(愛知医科大学)

参加申込▶官製ハガキに氏名、所属、住所、TELを明記の上、中部ろうさい病院事務局まで(定員100名)

東京都医師国保組合からのお知らせ

医師国保組合「保健事業」
のご案内

当組合では下記の保健事業を行っています。

- 特定健康診査・特定保健指導
- 健康家庭の表彰
- 「こころとからだに効く講演と音楽の集い」
- 育児書の配布
- 医療費通知(柔道整復療養費)
- 脳ドック費用の助成
- 契約温泉保養所宿泊費用の助成
- 宿泊施設・プール等の割引利用契約

75歳以上の組合員の方には
下記の事業も行っています。

- インフルエンザ予防接種費用の補助
- 高齢者(80歳以上の組合員)の表彰
- 死亡見舞金の支給

忙しい皆様のヘルスチェック、
リフレッシュにぜひお役立てください！詳しくは、東京都医師国保組合までお問い合わせください。
☎ 03-3270-6431

エイズ検査・相談

日時▶ [月～金]午後3時30分～7時30分
[土・日]午後1時～4時30分場所▶ 東京都南新宿検査・相談室
渋谷区代々木2-7-8
東京南新宿ビル3F
(JR新宿駅南口 徒歩3分)申込▶ ① 電話予約
[月～金]午後3時30分～7時
[土・日]午後1時～4時30分
② インターネット予約(携帯電話のみ可)
<http://www.tmsks.jp>

費用▶ 無料・匿名

TEL:03-3377-0811

訂正とお詫び

都医ニュース第五九〇号
(平成二十七年四月十五日発行)
地区医師会長連絡協議会報告、上段左から
九行目の「事務局次長」は「事務局次長」の
誤りでした。
訂正してお詫び申し上げます。労災診療費算定基準及び
自賠責保険診療費算定基準
(手上げ方式の日医基準)
説明会開催要領

労災診療費算定基準及び自賠責保険診療費算定基準(手上げ方式の日医基準)について、本説明会を実施し、労災保険及び自賠責保険の診療費請求の円滑化を図る。

■日 時 平成27年6月16日(火) 14:00～16:00

■会 場 なかのZERO小ホール(中野区中野2-9-7)

■対 象 者 労災診療費及び自賠責保険診療費の事務担当者

■内 容 (1) 労災診療費請求のための留意点
(2) 自賠責保険と医療費請求
(3) 自賠責保険診療費算定基準(手上げ方式の日医基準)について

■参 加 費 無料

■参加方式 自由参加制

【主 催】

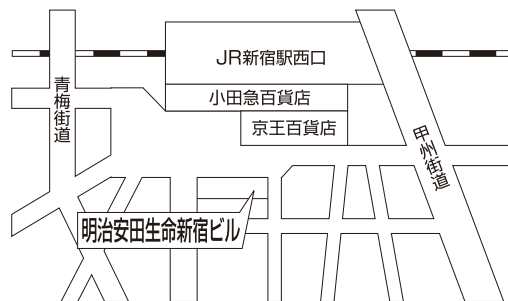
公益社団法人東京都医師会
東京労働保険医療協会
一般社団法人日本損害保険協会南関東支部
損害保険料率算出機構自賠責損害調査センター首都圏本部

お問い合わせ：東京都医師会 社会保険課 TEL：03-6256-0256

都医 HP・E メール

■ インターネット ホームページアドレス <http://www.tokyo.med.or.jp>
■ E メールアドレス jimu@tokyo.med.or.jp

新宿明治安田生命ホール



JR 新宿駅・西口正面 明治安田生命新宿ビル B1
〒160-0023 東京都新宿区西新宿 1-9-1
TEL/ホール専用:03-3342-6705 FAX/ホール専用:03-3342-1943

日本医師会生涯教育講座

日時 平成27年6月11日(木)
場所 新宿明治安田生命ホール
(新宿区西新宿 1-9-1)
(TEL:03-3342-6705)

日本医師会生涯教育制度 3.5 単位
カリキュラムコード 10、57、58、62、76、80、82
日本内科学会認定
総合内科専門医更新単位 2 単位

講演

午後1時30分～4時30分

糖尿病足の治療

座長 東京都医師会理事

友 安 茂

順天堂大学医学部形成外科学講座主任教授

水 野 博 司 先生

メディカルプラザ篠崎駅西口院長

新 城 孝 道 先生

学術映画 午後1時00分～1時30分

『フットケアを始めよう』

監修：かなもり内科院長

金森 晃先生

共催 東京都医師会
大正富山医薬品株式会社

糖尿病性足病変に対する

外科的治療と再生医療

水野博司先生

我が国における糖尿病患者のうち下肢に生じた難治性潰瘍、壊疽を合併する患者は3%以上存在し年間三千件以上の足切断術が行われている。かかる疫学的背景のなか、一人でも多くの患者の足を救済するためには多くの専門領域医にわたる集学的治療が要求される。

糖尿病性潰瘍の治療においては、神経障害、虚血、感染といっ

た背景因子の有無や程度を客観的に正確に評価し、刻々と変化する創部の状態に応じた適切な治療および再発予防を実践継続することが重要である。本講演では糖尿病性足病変の救済を目的とした外科的治療選択の考え方と実際と、現在研究開発に取り組んでいる自己末梢血由来幹細胞を用いた血管組織再生治療の現状についても紹介したい。

糖尿病足病変の

診断と保存的治療

新城孝道先生

糖尿病足病変は慢性の高血糖状態により生じた神経障害、下肢閉塞性動脈硬化症および感染症が複数関与し、種々の臨床像を形成する。足病変は靴擦れ、熱傷その他種々の外傷を契機に皮膚のバリアーの破損より感染症を併発し、悪化進行しやすい。また糖尿病知覚神経障害があるため発症の自覚がなく治療開始までに時間が経過することが悪化要因の一つとな

る。糖尿病患者は全身性の動脈硬化症があり、高血圧、脂質異常、喫煙、罹病期間や加齢で進行することが多い。下肢閉塞性動脈硬化症は無症状なことが多く、血管内治療や血行再建術施行が遅れることが多い。糖尿病足病変は糖尿病治療以外に血流改善、局所の安静保護、感染症治療等を同時にかつ集約的に行うことが必要である。

医師と医師会を結ぶ 情報紙

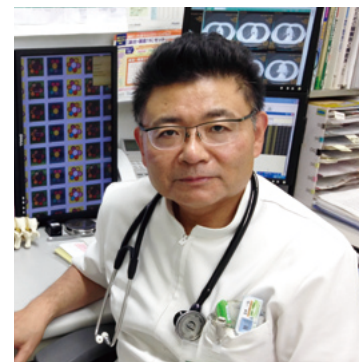
都医NEWS

2015

Vol.
591

地区医師会長からの一言 医療政策に現場の声を届けたい

西多摩医師会長 玉木一弘



私は医家とは縁のない出自で、30年前、大した足がかりも無く西多摩で開業医となり、都医に入会させていただきました。当然のことですが、自らのちっぽけな看板で医業を行うことの難しさに直面することになりました。私が今ここに立っているのは、医師会を通じて、何者ともつかぬ若輩に、市井の医師像の何たるかを自らの喜びとして教えてくださった多くの先輩方のおかげです。今も私を突き動かすのは、その先輩方への敬意と憧憬です。皆様のなかにも同様の体験が息づいていると思います。

'92年から西多摩医師会役員となり、担当分野を極めた侍の様な都医役員の皆様と接する機会を得て、少なからぬ薫陶を受けました。幸い'03年から8年間、都医理事を経験させていただき、世の中核の医療政策決定プロセスに、現場の声を届ける活動を学びました。

今、久々に地区に復帰して思うことは、地区医師会活動を、医療政策決定者と地域特性を背負う現場の医療提供者との、より建設的な協議と検証の場にしたいということです。

西多摩は都面積の26%を占め、山間の集落、平野部の耕作地と市街地から成る広大な生活圏に約40万人が暮し、高齢化・医療資源の偏在や不足・災害リスク等、深刻な課題を抱えています。人口減少や都心への集約化のなかで、西多摩が、人や文化や産業が息づく地域として存続するためにも、地域包括ケアシステムの実現に関わる医師会活動の責務の重さを感じるところです。それは、この地を引き継ぐ次世代の医師達へ“医師会の意義”を伝える活動でもあると思います。多様な価値観や細分化された現場を包

括し、“社会貢献と自己研鑽”を具現化し、理念への結束を維持することは容易なことではありませんが、日々の活動の積み重ねに、その答えを求めたいと思います。

日本専門医機構の創設に併せ「総合診療医」が再び論じられています。医師会で伝承されてきた「地域の保健・福祉・医療・介護に幅広い能力を有し、在宅医療を含む多様な医療サービスの提供に関われる医師像」を、自己研鑽に基づく日医生涯教育制度等に依って体系化し、地区で展開し、社会的評価を獲得する活動を継続したいと思います。

そのなかから、理念と意欲を以って、社会貢献事業の開発と実践に取り組み、自らの医業を超えて会務に挑もうとする人材を育成し、地域の人々と危機感を共有できる、“力強い機能集団”を形成する努力を継続したいと思います。会員の声を束ね、先駆けて課題解決を案じ、地域特性に見合った現場を作り、後輩に託す活動を地道に継続したいと思います。

医師会は、「活動で実現する」という信念の拠り所で在り続けることで、「プロフェッショナルオートノミー」を維持向上する、力の源に成れると考えたいと思います。

医師会が住民を守り、道を切り開いて進み続けられるかの剣ヶ峰は、地域包括ケアシステムの法的主体である地域自治体と協働した、一刻一事の活動毎に在ると考えたいと思います。

その声を、中核の医療政策決定者に届ける都医の役割もまた重いものであり、その一員として精一杯支えたいと思います。